

### ・1年度目（2021年度）

- 9月 本学地域連携博士課程運営委員会（委員長：事業統括）を中心に本プログラムを申請
- 12月 本事業を運営するための本学規定類の整備  
北九州地域博士活用委員会の設置と第1回開催：学生選定方針等決定  
育成チーム編成（2チーム）
- 1月 育成チーム初回会合、事業評価研究チーム初回会合実施（これより定期的に開催）  
既存の博士後期課程学生から本プログラム加入学生選定（4名）  
北九州地域博士活用委員会第2回開催：2021年度加入学生決定  
新規学生ベースライン評価実施  
受講対象者を本学社会システム研究科に広げるための体制づくり開始
- 1月から3月 支援活動の立ち上げと実施
- 3月 次年度4月加入学生の選定（2名）  
育成チーム編成（1チーム）  
育成チーム活動開始（2021年度加入学生との初回面談、これ以降、月1回程度実施）  
地域インターンシップ開始（学生4名）  
国際性強化教育実施（国連大学グローバルセミナー、3/8-11の5日間の英語討論、学生1名参加）  
アントレプレナーシップ教育実施（博士号を持つ起業家との交流会、3/28に北九州学術研究都市  
で実施、学生2名参加）  
学生定期評価  
北九州地域博士活用委員会第3回開催：本プログラム定期評価

### ・2年度目（2022年度）

- 4月 人事異動等で交代の必要がある場合に育成チーム編成（2チーム）  
新規学生ベースライン評価実施  
2022年4月加入学生育成チーム初回面談（これ以降、月1回程度実施）  
地域インターンシップ実施先開拓のための地域団体打合せ（北九州活性化協議会等）
- 4月から3月 地域インターンシップ支援活動（実施先紹介、強化すべき能力の事前整理と事後評価）  
海外での研究活動支援（実施先紹介、資金補助）  
アントレプレナーシップ教育等実施
- 8月から9月 10月加入学生の選定（2名）  
人文・社会科学系研究者を含む異分野合宿研修実施  
北九州地域博士活用委員会第1回開催：前期実施状況評価
- 10月 2022年10月加入学生育成チーム初回面談（これ以降、月1回程度実施）
- 11月 評価結果をもとに学生選抜体制改善  
新規学生ベースライン評価実施
- 12月から3月 次年度4月加入学生の選定（社会システム研究科を中心に実施、1名）  
北九州地域博士活用委員会第2回開催：加入学生の決定  
本事業を含む博士後期課程改良策を本学中期計画に盛り込み
- 3月 学生定期評価、学生修了時評価  
北九州地域博士活用委員会第3回開催：本プログラム定期評価  
（以下、毎年同時期に年3回程度開催）

### ・3年度目（2023年度）

- 4月 人事異動等で交代の必要がある場合に育成チーム編成（2チーム）  
国際環境工学研究科の博士後期課程定員拡充（分野横断型コースの新設等を第4期中期計画（2023-2028）準備のために検討中）  
2023年4月加入学生育成チーム初回面談  
新規学生ベースライン評価  
地域インターンシップ実施先開拓のための地域団体打合せ（北九州活性化協議会等）
- 4月から3月 地域インターンシップ支援活動（実施先紹介、強化すべき能力の事前整理と事後評価）  
海外での研究活動支援（実施先紹介、資金補助）

アントレプレナーシップ教育等実施

8月から9月 10月加入学生の選定(1名)

9月 学生修了時評価

10月 2023年10月加入学生育成チーム初回面談

新規学生ベースライン評価実施

3月 学生定期評価、学生修了時評価

・**4年度目 (2024年度)**

4月 人事異動等で交代の必要がある場合に育成チーム編成 (1チーム)

本プログラムの継続策作り開始 (支援提供水準、組織、資金)

地域インターンシップ実施先開拓のための地域団体打合せ (北九州活性化協議会等)

4月から3月 地域インターンシップ支援活動 (実施先紹介、強化すべき能力の事前整理と事後評価)

海外での研究活動支援 (実施先紹介、資金補助)

アントレプレナーシップ教育等実施

8月から9月 人文・社会科学系研究者を含む異分野合宿研修実施

修了者・在籍者交流会の実施

3月 学生定期評価、学生修了時評価

・**5年度目 (2025年度)**

4月 人事異動等で交代の必要がある場合に育成チーム編成 (1チーム)

地域インターンシップ実施先開拓のための地域団体打合せ (北九州活性化協議会等)

4月から3月 地域インターンシップ支援活動 (実施先紹介、強化すべき能力の事前整理と事後評価)

海外での研究活動支援 (実施先紹介、資金補助)

アントレプレナーシップ教育等実施

8月から9月 修了者・在籍者交流会の実施

3月 学生定期評価、学生修了時評価

・**6年度目 (2026年度)**

4月 人事異動等で交代の必要がある場合に育成チーム編成 (1チーム)

地域インターンシップ継続のための地域団体打合せ (北九州活性化協議会等)

4月から8月 地域インターンシップ支援活動 (実施先紹介、強化すべき能力の事前整理と事後評価)

海外での研究活動支援 (実施先紹介、資金補助)

アントレプレナーシップ教育等実施

9月 北九州地域博士活用委員会による事業全体評価

・**本プログラム入学後10年間の在学・修了生状況調査 (事業統括と事業評価研究チームにより実施)**

**(2) 既存の取組みとの連携・活用**

図6-1は、本プログラムで提供するキャリア開発・育成コンテンツと本学がこれまでに行ってきた大学院改良事業の関係である。本プログラムで提供するコンテンツの基盤として既存事業による経験や資産を活かせるため、事業開始後に素早い立ち上げが可能である。地域で博士後期学生を育て、博士号取得者を地域で活かすという、本事業の方針に合わせてさらに改良を行う。

本学大学院の資産・  
大学院改善プログラム

これまでの経験や人的ネットワークを活用する  
キャリア開発・育成コンテンツ

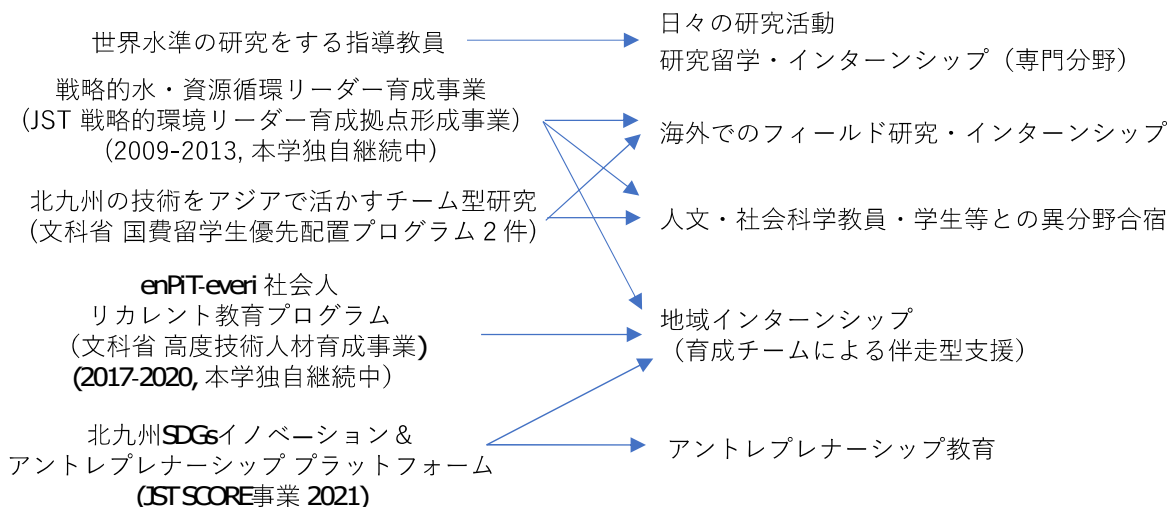


図6-1 本学の既存事業による経験の活用

以下、大きな成果を上げてきた既存改良事業について紹介する。

**1) 戦略的水・資源循環リーダー育成事業 (JST戦略的環境リーダー育成拠点形成事業2009-2013年度、終了時S評価)**

事業統括が12年以上にわたり、本学の安井英斉教授とともに中心的に運営してきた事業である。北九州市の行政・企業による海外への環境技術展開とそれによる地域活性化を大学院生教育と組み合わせた事業であり、本プログラムの原型となっている。通常のコースに対するアドオンプログラムの形で環境学や共創型研究の講義、実習、国内外の研究インターンシップ、リーダーシップ能力評価面接などを行う。図6-2に示すベトナムの例のように、現地の行政・研究機関との関係作りから始め、北九州の技術のフィールド試験と展開に合わせた大学院生の教育、修了生の事業への参画を通じて教育・社会実装の両面で成果を上げてきた。同様の展開は、中国やインドネシアでも進んでいる。本事業は、JSTによる助成期間終了後も2期にわたる国費外国人留学生の優先配置特別プログラム（現在稼働中のものは、2019年度採択の「アジアの環境問題を組織で解決するための共修型教育プログラム」）やJICA研修員（長期）制度などの奨学・研修制度と組み合わせながら本学資金で継続しており、現在も博士前期16名、博士後期10名の受講者がある。



図6-2 戦略的水・資源循環リーダー育成事業による学生教育から実務への展開例

戦略的水・資源循環リーダー育成事業のコンテンツとして、専用の講義のほか、研究室間留学、海外フィールドインターンシップ、環境教育活動、環境NPO活動、環境技術研修等があり、ポイント制で履修管理を行っている。助成期間終了後もコンテンツ提供を継続するために、研究室活動と融合させる「日常化」を行った結果、現在も研究指導教員の協力のもとで多様な活動が続き、中国・東南アジアを中心とする大学、研究機関、行政機関にまたがる広範な修了生のネットワークが増強され続けている（これまでの修了生は、博士前期103名、博士後期27名）。戦略的水・資源循環リーダー育成事業は、留学生の参加者が多く、修了後に帰国した者が多いが、本事業では、とくに日本人・日本在住者の参加を増やすことに注力する。

## 2) enPiT-everi 社会人リカレント教育プログラム（文部科学省 Society5.0に対応した高度技術人材育成事業、

### 2017年度採択）

地域連携博士課程運営委員会委員の中武繁寿教授を中心に運営されている。大学を活用した社会人リカレント教育により、地域産業の活性化を目指す事業であり、本学を代表校として、九州工業大学等の九州・中国地方の大学と連携し、地域の多様な産業構造や人材を想定し、人工知能やロボット技術などの新しい情報技術をIoTという応用体系のなかで社会実装できる人材を育成している。5つのコースを年に2回開講し、年間100名ほどの受講者を教育するほか、公開講座等による技能の普及を図っている。

もともとは、社会人リカレント教育の枠組みであるが、地元中小企業・スタートアップ企業との共同活動の中で、博士号レベルの高度専門人材（修士卒では不十分）への需要があることがわかってきた。今回申請するプログラムでは、当該事業によって把握した地域中小企業の課題や、地域中小企業との強固な連携体制が反映・活用される。